

個別リスク検診研究  
ニュースレター

# アイリス レター

Vol.4

「アイリスレター」は、  
個別リスクの内視鏡検診研究に  
ご協力いただいた方に  
お送りしているニュースレターです。

## 見出し

* 2 回目の胃内視鏡検診は受けましたか？	.....1
* 研究進捗状況の報告	.....2
* トピックス：がんゲノム医療	.....3
* お知らせ	.....4



発行日 令和元年 10 月 30 日  
発行元 胃内視鏡検診研究事務局  
URL <http://www.j-sasg.jp/>

## 2 回目の 胃内視鏡検診は受けましたか？

今年度は、平成 29 年度に研究に参加していただいた方のうち、2 回目の胃内視鏡検診をご案内しています。また、胃内視鏡検診の受診時にはアンケート調査へのご回答もお忘れなよう、お願いします。

この研究では 1 年おきに 3 回続けて、胃内視鏡検診を受診することをお願いしています。胃がん検診は 1 回の受診だけでは効果がありません。続けて受診することが大切です。

地域によっては、検診受診方法が平成 29 年度と異なっている場合があります。たとえば新潟市では、今年度に偶数年齢になる方のみ胃内視鏡検診が受診できます。また地域により検診受診の時期も異なりますので、ご確認ください。

今年度の胃内視鏡検診のご案内とアンケート調査はすでにお送りしています。

未着の方、またご不明な点等ありましたら、地域の検診研究事務局まで、お気軽にお問い合わせください。



### キャラクター「アイリスちゃん」紹介

アイリス（あやめ）の花言葉は「よい便り」「メッセージ」です。「アイリスちゃん」は、研究協力をお願いしている方々に、健康に役立つ情報をお届けします。

本研究は、日本医療研究開発機構研究費による「個別リスクに基づく適切な胃がん検診提供体制構築に関する研究」（課題番号：19ck0106527h0001）研究班（研究代表者 深尾彰）の一部として行っています。

## 研究進捗状況の報告

本研究は、胃内視鏡検診を受診される方々を対象として全国規模で研究を行っています。研究に参加していただく人数の目標は15,000人です。3年目を迎える令和元年度現在の研究参加者は5,660人です。

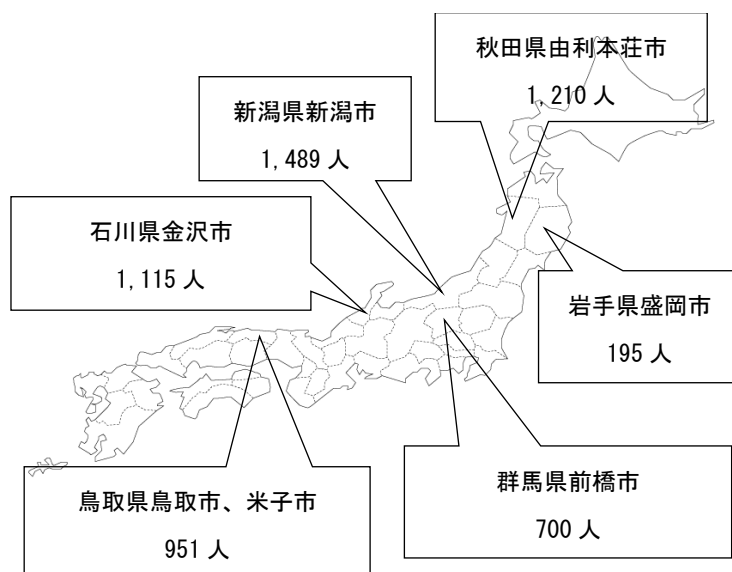
今年度から岩手県盛岡市が加わり、全国6県7市で研究を行っています。いずれの地域も、精度の高い胃内視鏡検診を提供している、全国でも優良な地域です。

最も研究参加者が多いのは、新潟市の1,489人、ついで秋田県由利本荘市や石川県金沢市が順調に研究参加者を増やしています。

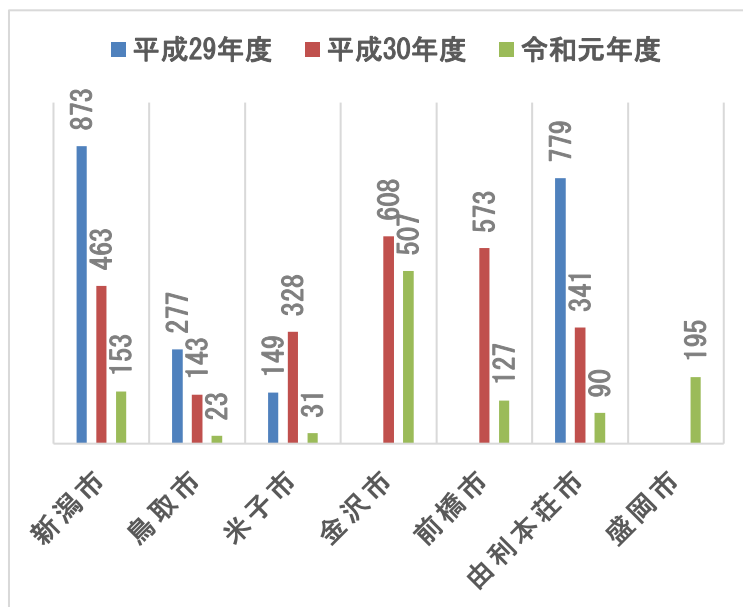
胃内視鏡検診は、主として地域の診療所を中心に行われていることもあり、かかりつけ医の先生方に皆さまへの研究の説明も含めご対応いただいております。これからも、協力地域を拡大していく予定ですが、行政や医師会と協力しながら、研究を進めていきます。検診の開始時期は、4月から6月と地域によってさまざまです。検診が始まり、暑い夏が終わるまでの時期は検診に参加する人自体が少ない時期です。秋に入り、ようやく過ごしやすい気候になったこれからはまさに胃がん検診のシーズンとなります。

すでに研究にご協力いただいている皆様におかれましては、お近くのご友人やご家族で研究にご興味のある方にも、研究協力へのお声かけをお願いします。

研究参加者の地域別内訳（令和元年10月現在）



胃内視鏡検診リクルート状況



## トピックス:がんゲノム医療

今回は「ゲノム」をがんの治療に応用する「がんゲノム医療」についてお話ししましょう。

まず拒否反応の元の「ゲノム」とは何かです。「ゲノム」(genome)は、遺伝子(gene)と、すべてを意味する-omeを合わせた造語で、遺伝情報全体という意味です。この遺伝情報全体が実は体を作るための設計図のようなもので、もっとわかりやすく言えば、「体質」を決めるモノなのです。

「寒さに強い体質」とか「風邪をひきやすい体質」と言いますが、寒さに強いのも風邪をひきやすいのも実はその人のゲノムが決めていると考えられるのです。遺伝子のことがそれほどわかっていなかった時代にはすべて「体質」で片づけられてきたことですね。現在ではこれらの体質の違いは、遺伝子検査によって説明がつくようになったのです。

がんについても、ある抗がん剤がよく効く人と効かない人がいますし、副作用がおきやすい人とおきにくい人がいますが、その違いを決める遺伝子情報を明らかにしてがん治療の効果を最大にしようとする試みが「がんゲノム医療」です。このゲノム医療は、ひとりひとり異なる遺伝情報(体質)をもとにして治療を行うという意味で、「個別化医療」とも言われており、がん治療以外のさまざまな疾患についても活用が期待されています。

ここで「遺伝子」という言葉ですが、この「遺伝子」は親から引き継いだモノであり、したがって自分の子供たちにも引き継ぐモノと考えていませんか。もちろんそういう遺伝子のがんのリスクになることはありますが、実は全く正常な遺伝子が環境要因(紫外線、喫煙、感染など)により変異を起こし、この遺伝子の変異ががんのリスクを高めたり、薬剤に対する感受性(効く効かない、副作用をおこすおこさない)を変えたりすること

が分かってきました。このように環境要因で変異をおこした遺伝子は、自分の子供に引き継がれることはありません。

「がんゲノム医療」とは、遺伝子検査によってひとりひとりの異なる体質(遺伝子の変異)を明らかにし、それに応じたがん治療(個別化医療)を行うこととなります。すでに大腸がんや乳がんなど一部のがんで医師が必要と判断した場合、遺伝子検査を行ったうえで治療を進めることが実際に始まっていますが、今のところ多くのがんでデータが十分そろっていないこともあり、どなたでもというところまではいたっていません。

現在、ゲノム医療に関しては、厚生労働省が、網羅的な遺伝子解析を行うことができ、専門の人材がそろっているなどの条件を満たした「がんゲノム医療中核拠点病院」(全国で11カ所)と、それらと連携してゲノム医療を行う「がんゲノム医療連携病院」(全国で135カ所)を指定して実施しています。がんのゲノム医療は、①標準治療がないなどのまれながん、②原因不明のがん、③標準治療終了後で新たな薬物療法を希望する場合に実施するとされており、まずは安全性と有効性が確認されている標準治療(手術、放射線治療、薬剤治療)を受けることが強く勧められています。

「がんゲノム医療」は、かなり進んだ医療である反面、必ずしも治療法が見つからない、倫理的な問題が避けられないといったデメリットもあります。これについては、国立がん研究センターのサイト(<https://ganjoho.jp/>)をご覧ください。

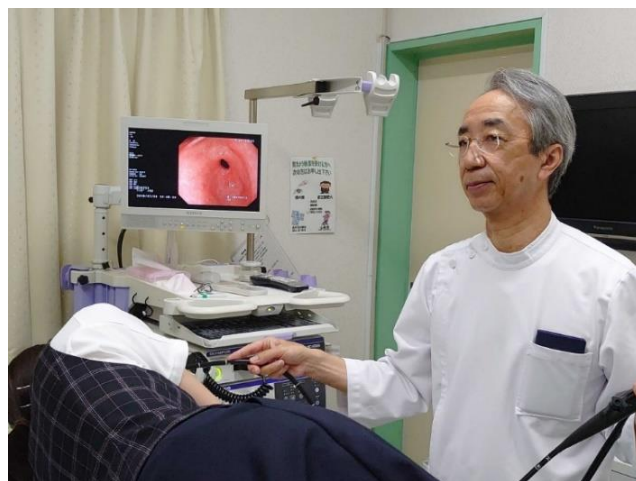
(研究代表者 深尾彰)

## 【おめでとう！新潟市医師会 日本対がん協会賞受賞】

この度、新潟市医師会が日本対がん協会賞を受賞しました。新潟市は、全国に先駆け、胃内視鏡検診を導入しました。その中心的な役割を果たしたのが、新潟市医師会です。新潟市医師会は、内視鏡専門医が多く所属し、胃X線検診の精密検査にも積極的に取り組んできました。また、内視鏡医のカリスマ小越和栄先生（平成26年度日本対がん協会賞個人の部受賞。業績：35年の長きにわたり、消化器内視鏡を中心にがん診療に携わり、がん予防対策に貢献）が、後進の指導にあたり、精度の高い内視鏡検診を提供できる体制が早くから準備されていました。

新潟市医師会は、2年にわたり、新潟市と折衝し、平成15年に胃内視鏡検診の導入に成功しました。新潟市医師会では、検診精度の向上を目指し、内視鏡専門医による「胃内視鏡検診読影委員会」を設置、専門医の有無にかかわらず、全症例のダブルチェックを行っています。さらに、画像を評価しフィードバックすることで、胃内視鏡検診精度のさらなる改善を目指しています。胃内視鏡画像読影会、研修会を通して、専門医以外の医師のレベルも向上してきました。

また、当初から胃内視鏡検診の有効性評価に取り組み、症例対照研究により胃内視鏡検診の胃がん死亡率減少効果を証明した論文を国際学術誌に公表しています。これらの成果を踏まえ、国立がん研究センターの「有効性評価にもとづくがん検診ガイドライン」が胃内視鏡検診を推奨、平成28年の厚生労働省の指針改訂に結び付けました。「新潟方式」がまさに胃がん検診の流れを変えたのです。新潟市医師会の藤田一隆会長（写真）は、「医師会だけではなく、住民のニーズにこたえ、行政・病院・診療所が連携し、一丸となって検診を勧めた成果」と語っています。



日本対がん協会ホームページ

<https://www.jcancer.jp/>

## 【胃内視鏡検診研究

### 中央事務局を設置しました】

各地の胃内視鏡検診研究の成果をまとめ、地域の事務局を支援するための中央事務局を設置しました。

全国での研究の進捗状況、アイリスレターやホームページへの掲載希望などがございましたら、中央事務局あてE-mailでご連絡ください。

〒173-8605 東京都板橋区加賀 2-11-1  
 帝京大学 医療技術学部 看護学科  
 保健医療政策研究室  
 URL : <http://www.j-sasg.jp/>  
 E-mail : [endoscope.jimukyoku@gmail.com](mailto:endoscope.jimukyoku@gmail.com)

## 【令和元年度 ミニ講演会のご案内(新潟市)】

日時：令和元年11月30日(土)

10:00～12:00 (受付 9:30～)

会場：新潟市総合保健医療センター 2F 講堂  
 新潟市中央区紫竹山 3-3-11

定員：100名(先着順) 参加費：無料

申込：FAX 025-247-8836

電話 025-247-8900 (9:00～16:00)

講演1 「大腸がん検診を受けましょう

～精密検査が大切です～

講演2 「乳がん検診～最近の話題～」